

[教育方法一般]

子どもの活動が飛躍する体験の分析

- 「学びのノート」の記述に見られる思考の変化に着目して -

朝井 宜人*

1 はじめに

(1) 問題の所在

子どもは、様々な人やものとかかわりながら日常生活をおくる中で、新しいことを知ったり、気付いたり、感動したりと多種多様な学びを積み重ねている。Zimmerman (2008) は、自分をモニタリングしながら目標を設定し自らの行動を修正していく自己調整サイクルをもとにした実践で「自己調整学習」の有効性を唱えている。

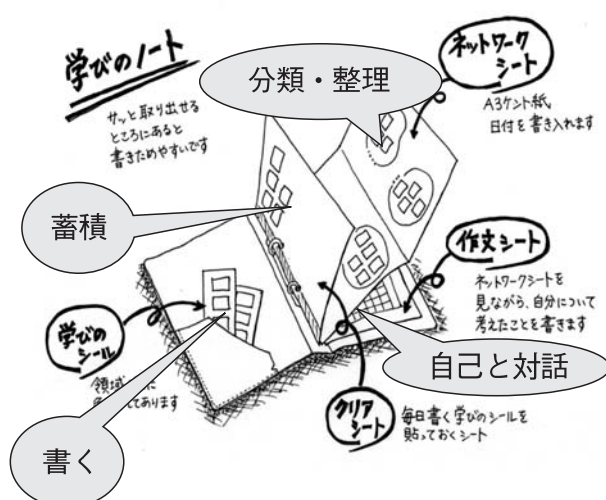
そこで、日常生活における多様な学びを子ども自身が振り返ることで、これからの自分の在り方に反映させ、よりよい自己形成を促す取組を推進すべく、平成17年度から取り組み始めたのが「学びのノート」である。当初は4年生以上をその対象とし、それぞれ担任が手法を探りながら試行錯誤的に実践を重ねた。そして平成20年度、それぞれのこれまでの実践を整理し、(2) に示す手法で全校体制のもと取組をスタートさせた。

体験を「書く」ことで振り返り、これからの自分にとって大切なことを自ら価値付けていくことを目指したこの実践は、平成21年1月30日の当校の研究発表会に出席した多数の教師から注目された。しかし、「学びのノート」が子どもの言動にどのように作用しているのかについては、具体的検証が十分ではなかった。

本研究では、「学びのノート」における子どもの記述をもとに初めてその分析を試みる。なお、その際は活動後に書いた作文も補助的なデータとして合わせて取り上げる。

(2) 学びのノート

「学びのノート」は4年生以上の全学級において以下の4つのステップを踏み、繰り返して取り組んでいる。



①書く

帰りの会で一日の生活（体験）を振り返り、心に残ったことや気付いたこと、考えたこと等を「学びのシール」に書く。

②蓄積する

ある程度の枚数まで「学びのシール」を書きためる。

③分類・整理する

A3版のネットワークシートに、似たような内容が書かれたシールをまとまりにして貼っていき、それぞれのまとまりに自分でタイトルを付ける。

④自己と対話する

分類・整理したネットワークシートを眺めながら、自分の在り方を振り返り、感じたことを作文シートに書く。

2 研究の目的

「学びのノート」における記述とその後の行動とを照らし合わせ、子どもは自分を振り返りながらどのように自己

* 上越市立大手町小学校

形成していくのかを考察し、「学びのノート」の効果を検証することを本研究の目的とする。

3 データと考察方法

(1) 分析対象児の選定

分析対象児は、「学びのノート」に取り組んで3年目となる現6年生のA・B2人とする。A・Bは共に5年生から担任をしており、その取組の様子を見取ってきている子である。

今回A・Bを選定したのは、昨年度5年生のときに共に大手子どもまつり（文化祭）実行委員（以下、実行委員）※を経験したことで、その後の活動にプラスの変化が見られたためである。（このことは当校研究主任と上越教育大学教員の3名で協議し合意されている。）この活動前後の「学びのノート」における記述を分析することで、思考の内容や過程及びその作用が明らかになってくると考える。

※大手町小学校の実行委員（リーダー）活動

大手町小学校では、昼の放送や本の貸し出し等の活動は、希望制のリーダー活動として行っている。また、運動会や文化祭等の行事は実行委員がその内容についてアイデアを出し合い子どもが主体となって創り上げている。何年生でも参加することができる。

(2) データ

データとして用いるのは、「学びのノート」「学びのシール」「学びのネットワークシート」「振り返りシート」を含むと、実行委員活動の後に書かれた作文、及びインタビューデータである。

インタビューは実行委員の経験に関するもので、平成21年9月7日に約90分かけてA、Bに対して実施した。その際はICレコーダーによって音声を記録し、上越教育大学大学院生によってフィールドノートを作成してもらった。なお、インタビューとこのデータの使用目的については事前にA・Bに説明し了解を得た。

(3) 考察方法

A・Bが実行委員を経験したことをきっかけとして、どのように行動が変容していったのかを日常の見取りとA・Bへのインタビューから考察する。その考察結果については研究主任、上越教育大学教員と協議し合意を得る。

次に、A・Bの実行委員を経験する前後の「学びのノート」の記述から、「学びのノート」が2人のその後の行動にどのように作用したのかを考察する。

4 実行委員A・Bの行動の変容

(1) 担任によるA・Bの変容の見取り

Aは比較的もの静かな子である。大勢の前に出て話をすることはあまりなかった。しかし、5年生のとき実行委員に参加して以降、様々な実行委員活動に参加し、全校を動かす活動にも進んでかかわろうとするようになっていった。学級・学年の活動においても、自分の考えを進んで発言するようになった。

Bは、Aとは対照的で自分の考えを、みんなの前で積極的に発言する子である。集会活動等で学年の代表となって話をすることもよくあった。BもAと同様に、5年生の時の実行委員を経験して以降、様々な活動に積極的に参加していくようになった。

現在は、A・Bともに自分で構想を立て準備をし、状況を判断しながら臨機応変に会の進行ができるようになっていく。

このようなAとBの変容から、次のような仮説を設定した。

実行委員として、全校活動の企画を行ったり、全体の司会を務めたりする体験をしたことをきっかけに、その後の自分の行動を変化させる思考が行われた。

(2) A・Bの変容の自覚

実行委員活動について、以下の内容でインタビューを行い、ここでは③④について考察する。

①これまでに参加してきた実行委員やリーダー活動にはどのようなものがあるか。

②初めて参加した実行委員やリーダー活動はどんなものだったか。

③印象に残っている実行委員やリーダー活動は何か。

またそれは、何年生のときのどんな活動か。なぜ印象に残っているか。

④実行委員やリーダー活動に参加してよかったこと、自分が変わった・成長したと思うことはあるか。

データ 1：印象に残っている実行委員やリーダー活動は何か。

A の 発 言 内 容		B の 発 言 内 容	
担任	・今まで、たーくさんやってきたね。	B	・知らなかった。っていうことはやっぱそれが最初だったのかな。シナリオなしだったのは。
A	・はい	A	・そうそう。
担任	・その中で一番印象に残っている実行委員とかリーダー活動。何って聞かれたら、バツと思いき浮かぶの何だ？	担任	・うん、うん。
A	・大手子どもまつり。5年生の時の。	B	・わたしあれ以外去年思い出せないわ。
担任	・5年生の時の、何で？	担任	・それ以外思い出せない？あ、じゃ何でそれが残っていると？
A	・えっ、初めてあんな力入れてやった。それまで、あの、あんまり、そんな、だいぶ前から準備する実行委員なんてしたことなかったから。	B	・（実行委員に）6年生いなかったよね。
担任	・うん、そうだよな。あん時だよな。オリンピックやった時だよな。違う？	担任	・うんいない。
A	・そうそうそう。	B	・たぶん、それだからなんだろうな。たぶんね。
…中略…		担任	・上（の学年）がいなかったから？上がいなくて何で？
担任	・去年の子どもまつりが一番やっぱり印象に残った？力を入れてたから？	B	・やっぱ一度上になると、結構意見が通るし、それにおもしろかったな。
A	・力を入れてたっていうか、自分で案考えたから。	…中略…	
担任	・自分で考えた、なるほど。	担任	・でも、去年のそれが残るのは何が違うんだろ？今もそうじゃん。自分の意見通ったからって言ったでしょ？今一番上で、自分の意見結構通るよね？で、去年は違った？
A	・ゲームをどうするかとか。	B	・っていうか、子どもまつりの実行委員の前は、もうシナリオが決まっている実行委員しかやってなかったのかな。
担任	・うん。	A	・うん。
A	・今までは、こうするよって言われてから準備したりしたから。	B	・たぶんそうだよな。
担任	・うーん。そうだよな。けっこうじゃあ何、その前経験した活動は、うーん、やることがあらかじめ決まっていて、それをやってきた感じなの？	A	・うん。
B	・そうだった？	B	・シナリオが決まっている実行委員以外やってこなかったからそれがやっぱ初めて、んー意見で創るっていうのかなー
A	・だって、リーダー活動とかしかやってない。	A	・うん。
		B	・ほとんどシナリオは決まってたんだけど、少し考える余地も残っていて、おもしろかった。

データ 2：実行委員やリーダー活動に参加してよかったこと、自分が変わった・成長したと思うことはあるか。

発 言 内 容	
担任	・今一番印象に残っていた活動を挙げてもらったよね。で、それ以外にもいろいろやったと思うんだけど、その経験、たぶん自分にとって印象に残った活動だよな。で、そのことを経験したことで、その後、何か自分の中で変わったなとか、成長できたなとか、そんなふうに感じることは何かありますか？その後に生きているなとか思うこと。
A	・大手子どもまつりの時に、初めて、全校のいっぱい人がいるところでしゃべったから、それ以降は、実行委員とかしてもそういうしゃべるのも、普通にしゃべれるようになったのが成長かな。
担任	・うん。なるほどね。それまでは、あんまりなかった。Bさんはどうですか？
B	・んー、私もAと一緒に、実行委員のおかげで、人前で話すのも、話し方・マイクの使い方、そういうのも得意になったし、あとは、下級生の力の配分、何て言うんだろ、その人の得意な面を生かして、その人が一番やりやすいところをやらしてあげるってのが結構得意になったかなと思う。
担任	・うん、なるほどね。成長だよな。うん。そうだよな。それを今こうやって質問されて、初めてそうかなと考えた？それとも、んー、どっかでそういうことを感じる時があった？今初めてそれを思いましたか？それとも、他の活動をしている中で、そういうことを感じる時が？
B	・また実行委員をやったら、あー、うまくなったかも・・・
担任	・は、ある？
B	・うん。

AもBも6年生となった現在まで多くの実行委員・リーダー活動をしてきている。その中で一番印象に残っている活動について質問してみたところ、上記データ1およびデータ2のとおり、共に昨年度の大手子どもまつりのことを指摘した。そしてその理由を、初めて自分の考えで創り上げたからと振り返っている。さらにAは、④の質問に対して、「それ以降、人前で話ができるようになった」ことを自覚し、自分の成長ととらえた発言をしている。

同様にBも、「実行委員のおかげ」で話し方やマイクの使い方、下級生への配慮等について意識しながら取り組めるようになったことを自分の成長と自覚している。

このことから、実行委員としての経験が、2人のその後の行動を変化させるきっかけの1つになったと理解される。

5 「学びのノート」に見られるA・Bの思考

ここでは、A・Bが昨年度の実行委員活動の前後に「学びのノート」にどのような記述をしているのかを整理することで、その思考の経過を読み取っていく。その際は補助資料として、A・Bが行事後に書いた作文も使用する。

データ3：A及びBの実行委員後の「学びのノート」

Aの「学びのノート」		Bの「学びのノート」	
「学びのシール」(一部)	「作文シート」	「学びのシール」(一部)	「作文シート」
10/6 体育でとびばこをしました。合上前転をしました。でも上手くできませんでした。だけど、跳び箱の真ん中あたりに頭をつくといことが分かりました。 10/16 朝と1時間目を使ってなかよしタイムがありました。実行委員だったので、みんなを動かしたりしました。でもとてもむずかしかったです。今度はうまくできるようにしたいです。	11/4 今度は「気を付けよう」という分類が多かった。シールには、失敗したことと、今度こうすればうまくいくの2つのことが書いてあります。こうすると、次にするとき、うまくできるようになるから、これからも続けていきたいです。	10/17 子どもまつりのなかよしタイム準備がありました。かなり進んでうれしかったです。もっとやりたかったです。 10/23 子どもまつりの実行委員の仕事をしました。メダルのパーツは全部くっつけられてうれしかったです。	11/4 今回はうれしかったことがダントツでした。楽しかったことはあまりありませんでした。うれしかったことは教科にいっぱいありました。また、 <u>子どもまつりのこともいっぱいでした。子どもまつりは本番も楽しかったけど、前日までもよいことがいっぱいあったんだと思いました。</u> それ自体いいことだと思いました。
<div>2学期に整理した「学びのノート」を読み返して感じたことを作文にまとめる。</div>	12/10 2学期の学びを振り返って一番大切と思ったのは「やってみる」ということです。このことに関係するシールは1枚しかないけど、振り返ってみると、そう感じる事がたくさんあったので、これにしました。例えば、計算がおそくて嫌だったのですが、やらなきゃいけないときがあって、いやいややってみたら意外と早くできてよかったことがありました。あれをそのまましなかったら、楽しいがわからなくて損をしていたと思います。		12/18 一番変わったのは、分かりやすさです。1学期のシールを見ると意味が全然わからないのがいっぱいあります。 ・わたしは、行き当たりばったりで生きているなあと思います。学びのノートって、いきあたりばったりでやったことを忘れていて同じ間違いを何度もしてしまう私にはビックリかもって思いました。
	11/16 jcvに見学に行きました。たくさんカメラがあって、びっくりしました1つの番組を作るのにたくさんの人が協力しているのだと知りました。 1/20 理科室で実験をしました。でも後片付けの仕方が悪くて机をびちょびちょでふいたけどみんながしなくて困りました。	1/30 「みんなでする」というのは大切だなと思いました。後片付けやテレビ番組づくりなど、あまり関係のないのに、同じ所に分類したので、いろいろなことに使うのだろうなと思ったので、これからもみんなで協力することを大切にしていきたいと思いました。	12/1 本を借りに行きました。ついでに図書リーダーの代わりもして「本を返してくださいカード」を書きました。すべて書いてスッキリしました。 12/5 (学級の)クリスマス会の準備をしました。残る準備はカードの文字です。完成が楽しみでワクワクです。 12/19 クリスマス会をしました。かなりうまくいって楽しめたので良かったです。 <u>カードも喜んでくれてうれしかったです。</u>
2/18 今日なかよしDAY(縦割り班のメンバーで昼休みを過ごす日)がありました。4年が考えた遊びだったけど、 <u>みんなで意見を言って遊べたので楽しく過ごせてよかった</u> です。	2/24 「頑張りたい」というのが多かった。でも一番大切だと思ったのは、 <u>「意見を言うのは大切」</u> です。1枚しか書いてなかったけど、そう思うことがあったので大切だと思いました。(なかよしグループでのこと) ・私もなるべく発言するようにしたいと思います。 3/13 一番大切だと思ったのは「やってみる」です。分からないけどやってみようと感じることが多かったのでそうだと思いました。鉄棒も「できないけどやってみよう」と思うようになりました。やってみようと思うと、やれることが増えると思うのでこれからも続けていきたいです。	2/3 国語で物語を作りました。建物をいっぱい書いて大変でした。まだ半分です。がんばったので自分に拍手。 2/9 マーチングの練習を全部通しました。MDは吹けました。でも校歌は動き付きで難しかったです。本番は大丈夫かなあ。	1/15 今回は、「〇〇が〇〇になった」という分け方にしました。 ・かたづけ→人任せにしないで自分からできた。 ・ <u>リーダー活動→人のために何かやってそれを喜んでもらえるのはうれしい。</u> ・分かった→分かると結構うれしい。 ・今回一番大切だと思うのは、勉強したり練習しておくといいなと思います。「大切だと思っているけどできないから」です。
<div>今年度1年分の「学びのノート」を読み返して感じたことを作文にまとめる。</div>			2/24 今回は、整理するのがすごい難しかったです。シールとシールのつながりや、そのシールの奥が見えてこなかったからかな?と思います。 3/13 今年度一番大切だと思ったこと。それは、去年には分からなかったことです。去年の振り返りに「失敗したり、うまくいかなかったことを書きたい」と書きました。でも私の性格上、難しいと分かりました。去年は簡単に掛けると思っていました。私の性格は、短所を見て直すより、長所を見直します。

まずAの実行委員としての記述（下線）に注目する。「学びのノート」の中に、実行委員としての記述が出てくるのは、10月16日の「学びのシール」1枚のみである。内容は、全体を動かすことの難しさを感じたというものである。全校の前で司会をするのはAにとって初めての経験であり、自分ではあまりうまくできなかったととらえているのが分かる。そして子どもまつりの活動直後の作文には以下のように記述している。

10/29 「子どもまつり」で考えたこと

この間大手子どもまつりがありました。私はその時、なかよしタイム部の実行委員でした。（中略）やる前は、上手にできるのか不安だったけど、本当にやってみたら意外に楽しくてびっくりしました。その時、「やってみないと分からないんだな」と考えました。（中略）思ったよりうまくできたので、自分の中では、大成功の大手子どもまつりでした。

この日、Aは「やってみないと分からないもんだな」と振り返りをするが、数日経った11月4日の「学びのノート」には、このようには記述しておらず、「今度は気を付けよう」とタイトルを付けて分類し、「作文シート」には「次に生かしていこう」という内容のまとめをしている。この時点では「今度は気を付けよう」という気持ちが強かったことが分かる。

しかし、12月19日に2学期の「学びのノート」すべてを振り返ったときは、活動直後に書いた「やってみる」ということを一番の学びとして取り上げている。これは、3月18日に1年間すべてを振り返ったときも取り上げるほどAにとって大きな学びとなっていくが、それにはどのような背景があるのだろうか。

ここで注目したいのは、その学びの例として計算や鉄棒を取り上げていることである。Aが実行委員を経験して感じたことを、算数や体育など他の活動における自分の行動と結び付けてとらえている。（12/19, 3/18）このことからAは「まずやってみよう」という学びを様々な場面で補充することで、自分にとって大きな学びとしていったと考えられる。

また、1月から2月にかけての「学びのノート」の記述（下線）に注目すると、Aはこの頃「みんなで取り組むこと」「みんなの意見を取り入れること」その一人として「自分の意見を述べること」を自分の中の大きな学びとして意識していたことを見取ることができる。

そしてAはこの後、5年生時の最後の行事である「6年生ありがとうの会」の実行委員となり活動を行った。以下はその活動後に書いた作文である。

3/16 「6年生ありがとうの会」の振り返り

私は実行委員のゲーム係でした。ゲーム係の仕事は、ゲームの説明とゲームをするときの進行でした。説明は、初めてするゲームなので、ちゃんとルールが分かるか心配でした。だけど、説明文を考えると、みんなでどの言葉にしたら1～6年生に伝わるかを考えながら書いたもので、どうにか伝わりました。よかったです。（中略）堂々とできたのでよかったです。6年生も楽しんでくれたみたいなので、大成功の会になりました。

Aは「やってみよう」という気持ちで実行委員に参加し、ゲーム係としてその内容を考えたり、進行を務めたりした。振り返りには、全校にうまくゲーム説明ができるようにとメンバー「みんな」で相談をしながら準備を進めたことが記述してある。Aは「やってみることが大切」と「みんなで考えることが大切」という、これまでに学んだ2つのことを生かしながら活動に臨んだのである。

以上のことからAは、経験したことを「学びのノート」（及び活動後の振り返り作文）上で振り返り、学びとして蓄積しながら、その後の自分の行動に反映させていることが分かる。

次にBの記述（下線）に注目する。Bは子どもまつりの実行委員を体験する中で「自分で創り上げるおもしろさを感じた」ことをインタビュー（前述データ1）で答えている。それを裏付けるように11月4日の「作文シート」に、行事の当日だけではなくその準備の過程にも面白さがあることを記述している。

また12月の「学びのシール」及びそれを分類・整理した1月15日に書いた「作文シート」には、クリスマス会の準備と図書リーダーの活動に関係した記述が見られる。この活動を振り返る中で、Bは「人に喜んでもらううれしさやよさ」を自らの体験と結びつけて受け止めていることが分かる。

その後Bは、今年度4月に実行委員として参加した「1年生を迎える会」後の作文で、次のように振り返っている。

4/24 「1年生を迎える会」の振り返り

結論から入ります。すごく自分の力が伸びた気がします。そして私は楽しかったです。実行委員をしている間は、他のことがあまりできませんでした。例えば宿題。初めの頃は夜にやっていました。でもあまりにも眠いので宿題優先にしましたが。読書もそうでした。読書はちっともやる時間がありませんでした。昨日はギリギリで話す内容を考えてきました。（中略）最後にまた結論。私はすごく楽しかった。自分の力が伸びた気がする。そしてもう一つ。何より大変だったことも忘れてしまうような楽しさが感じられてうれしかった。

このときBは、当日に行うゲームの内容を企画し必要な道具類を準備した。当日は司会進行も務めている。記述からは大好きな読書をする時間もなくなるほど事前の準備に力を入れたことが分かる。その結果、準備の大変さを打ち消すほどの楽しさを感じている。これは、以前学んだ「行事までの活動の楽しさ」「人に喜んでもらううれしさ」を、実践することで再確認している姿ととらえることができる。さらに、このことで自分の成長を自覚することもできている。

このように、子どもまつりで実行委員を体験して以降、多くのリーダー活動及び実行委員活動に参加していくようになるBの「学びのノート」(及び活動後の振り返り作文)からも、学んだことを蓄積しながら、それを次の活動へと生かしていることが読み取れる。

6 考察

(1) 「学びのノート」における思考の過程

5で示したA・Bの行動の変容と「学びのノート」の記述を照らし合わせると右(図1)のような思考の過程が見えてくる。

① 自分にとって大切な学びを意識する

日常の振り返り活動で書きためた「学びのシール」を分類・整理すると、自分にとって大切なこと(以下学びと表記)が新たに見えてくる。例えば「やってみることって大切かもしれない」という気持ちである。このときの学びは、強く確信している状態ではない。ゆえに子どもには自分にとって大切なことかどうか試してみよう、あるいは確かめてみたいという気持ちが生ずる。子どもは、このことを意識しながら日常生活を過ごしていく。

② 意識した学びを実感としてより確かにする

日常生活の振り返りを重ねる中で、意識していたことが自分にとって大切であると実感する体験ができたとき、その学びはより確かなものになる(学びの補充・強化)。例えばAは、算数での計算場面や体育での鉄棒運動の場面などで、意識していた学びが「よい結果につながる」と感じる体験を重ねた。これらの体験を成功体験として振り返る中で、学びが「やはり大切だ」と、より確かなものになり蓄積されていく。そして、学びを確かにした子どもは、日常生活でそれをより意識し実践(行動の変容)していく。

(2) 「学びのノート」の効果

子どもまつりでの実行委員での活動をきっかけとして行動を変容させたA・Bの思考過程を、上記のように整理してみると「学びのノート」には以下のような効果があるとまとめることができる。

- ①日常生活で得た学び(行動の変容に至っていないもの)を意識付け、体験と結び付けるきっかけを作る。
- ②学びをより確かなものとして蓄積させる。
- ③学びの実践化(行動の変容)を促す。

(3) 課題

本研究では、「学びのノート」をよりよい自己形成のために活用できている子A・Bの記述とインタビューデータを分析し、その思考過程と「学びのノート」の効果について明らかにした。ここで明らかになった過程はZimmerman(2008)が主張する自己調整学習のサイクルモデルにほぼあてはまる過程である。しかし、物事への取り組み方が消極的になっているときや行動に変容が表れないときの子どもは、「学びのノート」を通してどのような思考をしているのだろうか。今後は、様々な状況にある子どもの記述をもとにさらに分析を続けることで、その効果についてより明らかにしていきたい。

参考文献

ディル・H・シャンク、バリー・J・ジーマーマン、塚野州一訳『自己調整学習の実践』北大路書房、2007年

バリー・J・ジーマーマン、セバスチアン・ボナー、ロバート・コーバック、塚野州一訳『自己調整学習の指導』北大路書房、2008年

図1:「学びのノート」における思考の過程

